

生活支援コーディネーターと しての活動報告

2017年(平成29年)7月13日

宮城県多賀城市 西部地域生活支援コーディネーター 今野まきこ

宮城県多賀城市の概要

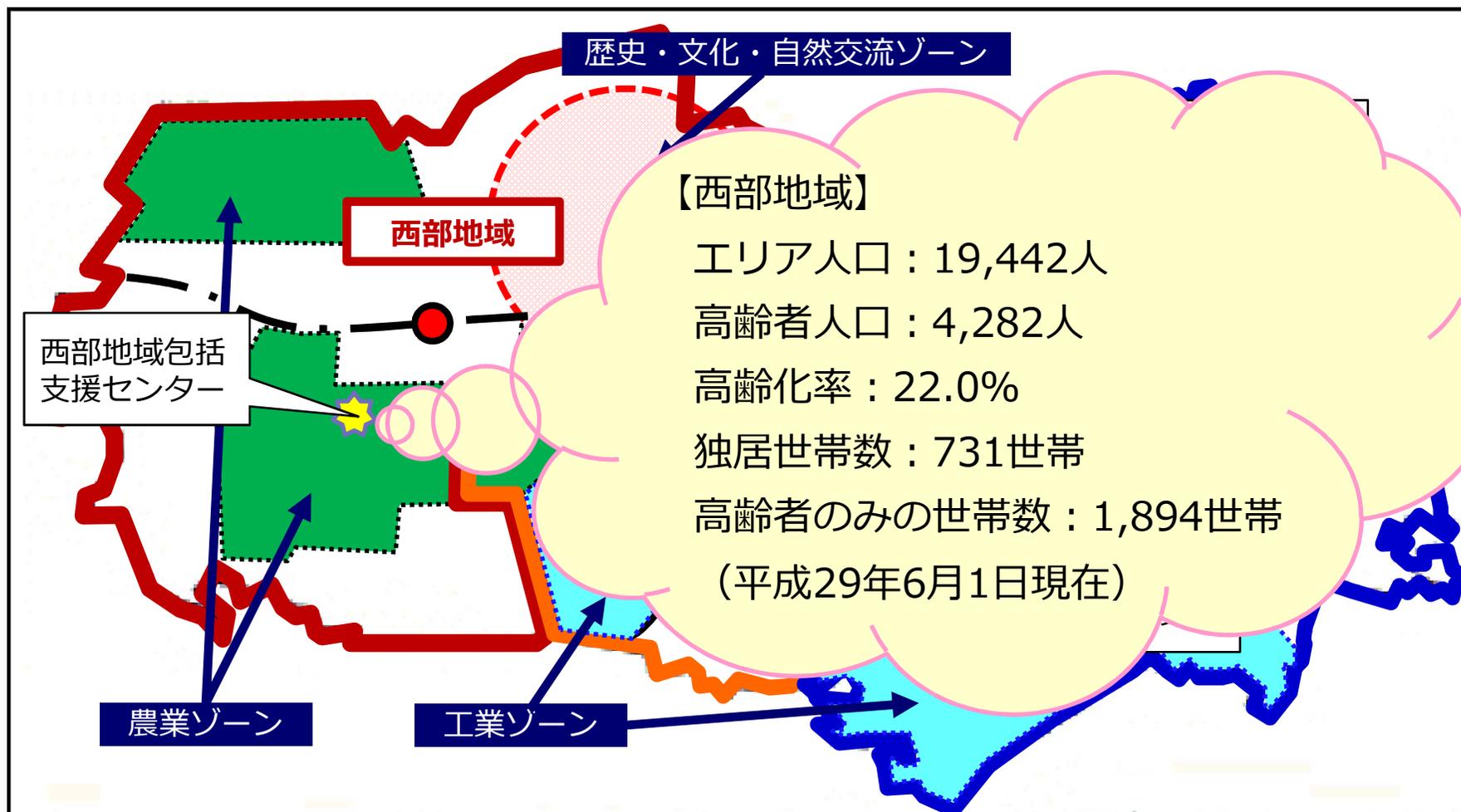
(平成29年6月1日現在)

- 総人口：62,917人
- 高齢者人口：14,393人
- 高齢化率：22.9%
- 市域面積：19.69km²
- 地域包括支援センター数：3箇所
- 地域特性
 - ① 市域が狭い
→ 県内35市町村の内、下から3番目
 - ② 人口密度が高い
→ 県内で2番、東北でも2番
 - ③ 人口移動率が高い
→ 県内で2番目に高い
 - ④ 高齢化率が低い
→ 県内で6番目に低い



仙台市に隣接し、市内にはJR駅が4駅あり、自衛隊駐屯地や国家公務員住宅も多く存在します。

地域包括支援センターの設置箇所



西部地域包括支援センターのご紹介

■設置時期

平成19年4月1日～

■事業者

社会福祉法人 千賀の浦福祉会

■配置人数

4名+1名（計5名）

（1名は生活支援コーディネーター
業務分）

■職種（平成29年6月1日現在）

主任介護支援専門員（管理者）

社会福祉士（2名）

看護師

介護支援専門員

■モットー

実際にお会いして相談を受ける



生活支援体制整備事業の状況

■多賀城市では

- ①協議体は **2層構造**
- ②第1層協議体は、既存の地域包括支援センター運営協議会が兼ねる
- ③第2層協議体は、地域包括支援センターのエリアごとに立ち上げ（3か所）
- ④平成28年4月から第2層協議体に生活支援コーディネーターを配置（各エリア1名ずつ）

第2層協議体が事業の活動主体

生活支援コーディネーターの活動にあたって

生活支援コーディネーターって何をするの？

担い手の養成

協議体の
メンバー探し

ニーズと取組
のマッチング

地域資源の発掘

新たな
サービス開発

※似ていますが、私ではありません。

今までの地域での活動を振り返ってみる

地域ネットワークの構築

○実現へのきっかけ

東日本大震災の発生

発生日時

平成23年3月11日（金曜日）

14時46分頃

震源地

三陸沖北緯38.1度、東経142.9度
（牡鹿半島東南東約130km付近）

震源の深さ

約24km（暫定値）

規模

マグニチュード9.0（暫定値）

市内の震度

3月11日（金曜日）14時46分51秒5弱

3月11日（金曜日）14時47分50秒5強

4月7日（木曜日）23時32分59秒5強

津波の高さ

仙台港：約7m、市内：約2～4m

浸水面積

662ヘクタール（市域の約33.7%）

津波到達時の市内大型スーパー



市内での死者数 188人（男112人、女76人）
多賀城市民 156人（男 92人、女64人）

東日本大震災で学んだこと

○ネットワーク構築の実現へ向けて

情報共有の必要性



地域の状況や相互の活動把握

民生委員や区長とのつながりが重要

地域ネットワーク会議 の誕生（平成25年度～）

地域ネットワーク会議

○担当地域を5つに分割し、年2回ずつ開催



(開催日時) 多くの方に参加いただくため、土日や夕方などに開催

(テーマ) 高齢者の情報交換、地域資源・地域づくりetc.

地域ネットワーク会議の効果

○会議に対する理解を得られるまでは**時間**がかかります

➡ 根気強く、繰り返し行った結果、こんな効果もありました。

地域ネットワーク
会議の副産物

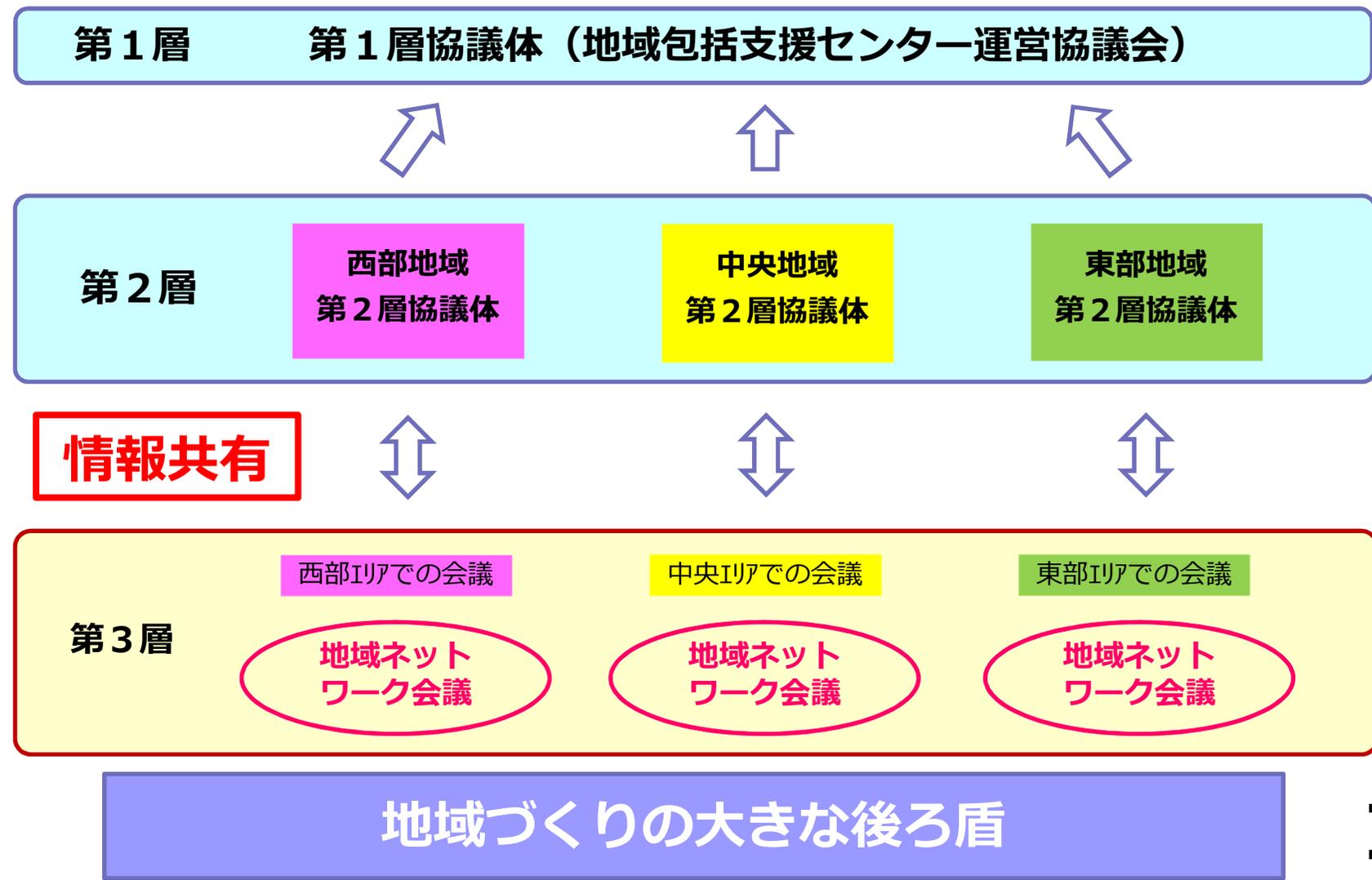
- ・顔の見える関係が構築できた。
- ・あらたな活動へのつながりが生まれた。
⇒お茶飲み会、認知症カフェなど

地域の集い（お茶っこ飲み会）



今では、市内の各包括
でもこのネットワーク
会議を行うようになりました。

地域ネットワーク会議の位置付け



地域のお宝探し

地域資源の把握

- ・ ネットワーク会議での情報収集
- ・ 公民館・集会所の利用予定調査
- ・ 地域の高齢者からの口コミ情報



地域活動に出向く

- ・ 見学ではなく、**まぜてもらおう**
(一緒に活動することで、気づきが生まれる)



気付いたこと

- ・ 活動の数、携わる人の多さ
- ・ それぞれの活動のつながり



見つけた地域のお宝①

歌の駅 カラオケあいん

運営：個人経営

営業：月～土曜日（10時～16時）
（10年程前から営業）

費用：入場料500円（トーストと
コーヒーのサービス付き）
3曲250円



一見、まちのカラオケ屋さんですが…

ポイント①：高齢者向けに安価でカラオケができる場を提供

ポイント②：ランチの提供、足の悪い方には送迎も

デイサービスの機能を有するカラオケ屋さんであることに**気付く**

➡ **「お宝」** の発見

見つけた地域のお宝②

和～ちゃん家

運営：個人経営

営業：毎週金曜・第3土日が定休日
(11時～17時)

東日本大震災直後から営業

費用：ほとんどのメニューが500円
アルコール・食材持ち込み可

一見、まちの定食屋ですが「看板」
にヒントが…



ポイント①：その人の健康状態に合わせた味付けや食事を提供

ポイント②：嗜好品の持ち込みもでき、過ごしやすい居場所を提供

孤食を防ぎ、交流できるサロンであることに**気付く**

➡ **「お宝」** の発見

発見した「お宝」の分析

○ 「お宝」の共通点

本来の目的

ストレス発散、栄養補給（健康維持）

目的以外の「役割」

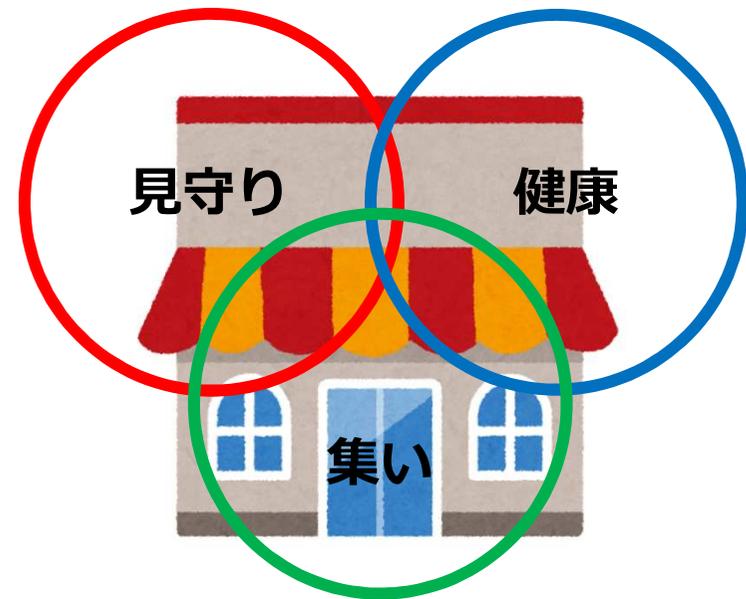
高齢者の交流の場
お互いの「見守り」の場

地域の活動にまざってみて気付いたこと

「お宝」 はたくさん存在する

ご紹介した方々は共通して、**「理念」** を持っている

どこの地域にも必ず「お宝」はあるはずです



第2層協議体について

- 協議体の名称
となりぐみ
- 名称の由来
「向こう三軒両隣」の精神を表す言葉を簡潔にしたもの
- 参加メンバー（10名）
区長、民生委員、老人クラブ会長、保健衛生推進員、被保険者、介護保険事業所職員
- 設置時期
平成28年6月～
- 開催頻度
月1回程度
(合同勉強会等により実施しない月もあり)



「となりぐみ」の活動

■ 第2層協議体としての活動

開催回	開催日	検討内容等
H28 第1回	H28.6.3	本市の協議体の考え方、西部地域の特性
H28 第2回	H28.7.22	西部の地域課題、取り組むべき活動
H28 第3回	H28.9.12	高齢者の見守り体制（先進事例紹介、グループワーク）
H28 第4回	H28.10.17	高齢者の見守り体制（グループワーク）
H28 第5回	H28.11.21	高齢者の見守り体制（資源報告、活動者報告、グループワーク）
H28 第6回	H28.12.26	研修会（12月14日）の感想発表、空き家・送迎問題の状況報告
H28 第7回	H29.1.23	送迎問題の報告、地域資源報告
H28 第8回	H29.3.13	協議体のネーミング、振り返り、勉強会報告、取り組み内容検討
H29 第1回	H29.6.3	協議体のネーミング、男のつどいの場づくり（明日会）
H29 第2回	H29.7.22	振り返り、男のつどいの場づくり（実施方法、内容、スタッフ）

■ 第2層協議体合同の活動

H28.12.14 地域支え合い合同勉強会（講師：CLC理事長 池田 昌弘 氏）

H29.2.24 地域のお宝発見講座（講師：CLCアドバイザー 酒井 保 氏）

H29.3.23 地域のお宝報告会（講師：CLCアドバイザー 酒井 保 氏）

※CLC…全国コミュニティライフサポートセンター

「となりぐみ」の問題・課題

○生活支援コーディネーターとしての悩み

■既に活動をしている方がメンバーの多くを占めることによる弊害

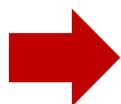
考えるより行動。結果をすぐに求める傾向がある。

■意識が変わらないまま事が進んでしまう恐れ

前回の手ごたえが、次の会では無かったかのようにすることも
思惑通りに中々進まない

■繰り返し話し合うことで気付いたこと

メンバーは**住民であり専門職ではない**
自分達の問題として捉えているからこそ進まない



「焦らず急がず」の心を持つ



まとめ

○生活支援コーディネーターの活動を通じて

- 何が正解（ゴール）かは、**まだ**分かりません
- 「地域を振り返ること」**は必須です
- 地域によって**「お宝」**は様々です
- 「お宝」探しは**ニーズを知る機会**でもあります
- 生活コーディネーターは**一人ではありません**
- 地域づくりはそこに住む**住民のもの**です
- 地域づくりは**時間がかかる**ものです



ご清聴ありがとうございました



西部包括支援センターのマスコットコットキャラクターです。